

能登にすむ人の
仕事や生活を
考えてみる



一般社団法人
ななお・なかのと就労支援センター





当法人の沿革

- **令和元年7月12日**

一般社団法人なお・なかのと
就労支援センターを設立。

- **令和3年10月1日**

中能登町井田に、就労継続支援
(B型) 事業所なにかとワーク、相
談支援事業所なんでもを設置。

- **令和4年10月1日**

七尾市白馬町に、就労継続支援
(A型) 事業所LABOを設置。

ひきこもりの課題

- 15歳から39歳は54.1万人、40歳から64歳までは61.3万人。（内閣府「令和元年度子供・若者白書 特集2長期化するひきこもりの実態」）



- 15歳から64歳までの年齢層の2%にあたる推計146万が、外出をほとんどしない状態が長期間続くいわゆる「ひきこもり」と発表。（内閣府調査2023.3.31報告）

⇒ **生活のしずらさを抱える方を支える活動をしたい。**

地域の困りごと

- 七尾市中能登町の人口の減少、地域の高齢化による耕作放棄地問題。荒れた田んぼ、山、放置された竹林。
- ほったらかしの竹林は、根の浅い竹の地下茎によって地盤が弱くなり、土砂崩れなどを起こしたり、イノシシ等が食害や衝突、掘り起し等により環境を破壊したり…。管理する人がいない…。

⇒ **地域の困りごとをひきこもり者や障害がある人が解消するお手伝いをしながら、それを仕事とできないか？**

また、整地された土地で農業をはじめ、それを観光農園とし、市町の観光地として提供できないか。

竹林課題への対応

- 竹林の管理に困っている地域住民に声をかけ、福祉事業所と連携し伐採を行う。
- 伐採した竹を、竹炭・竹チップ・竹肥料等、商品として利活用する。

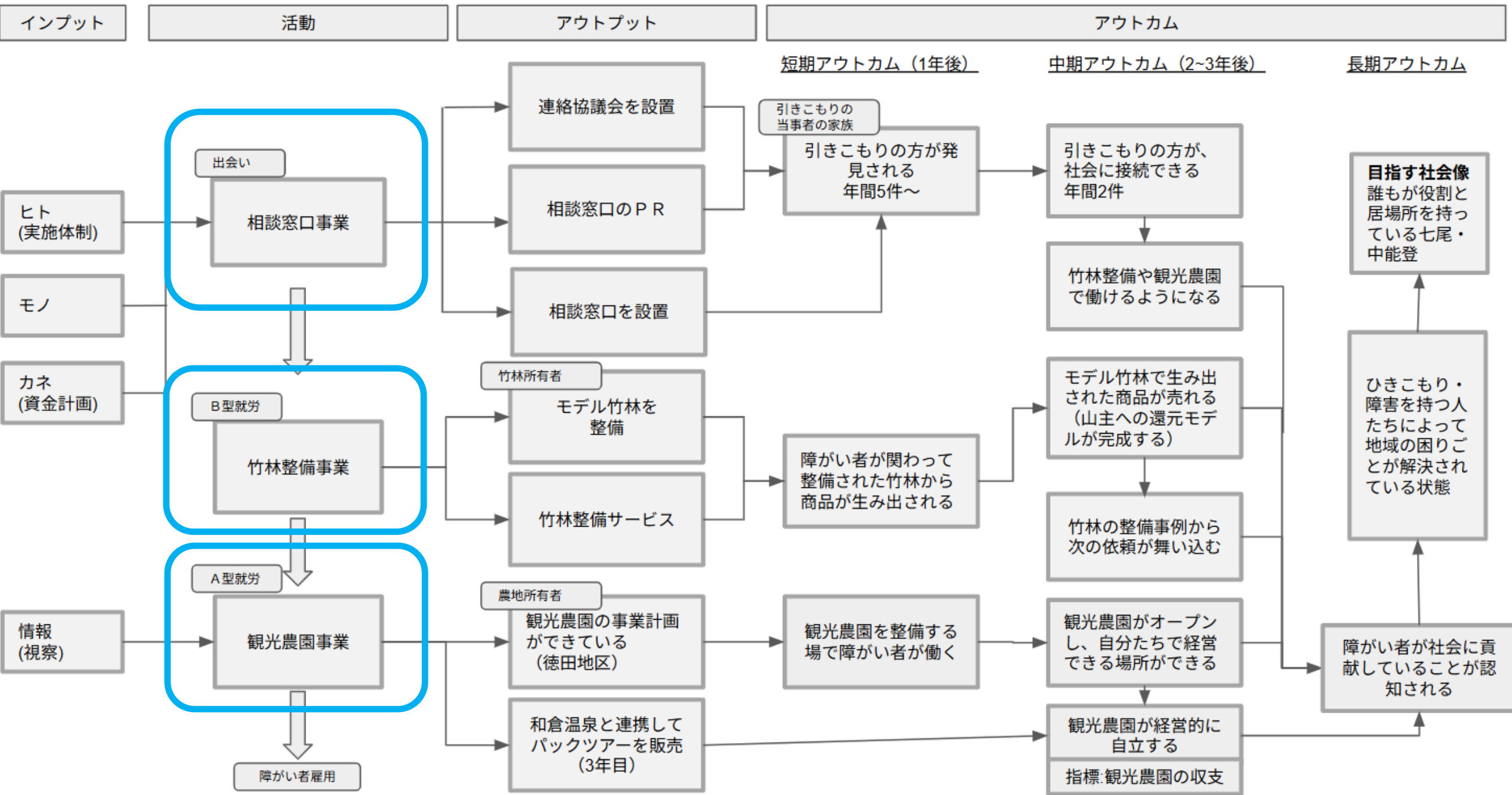
(メリット)

- 障害者等の新たな仕事が増える
- 地域住民も助かる
- 竹を利活用することで障害者等の収入も増える
- **障害者が地域を支えるモデルができる。**



事業名：障がい者が地域の困りごとを解決する事業

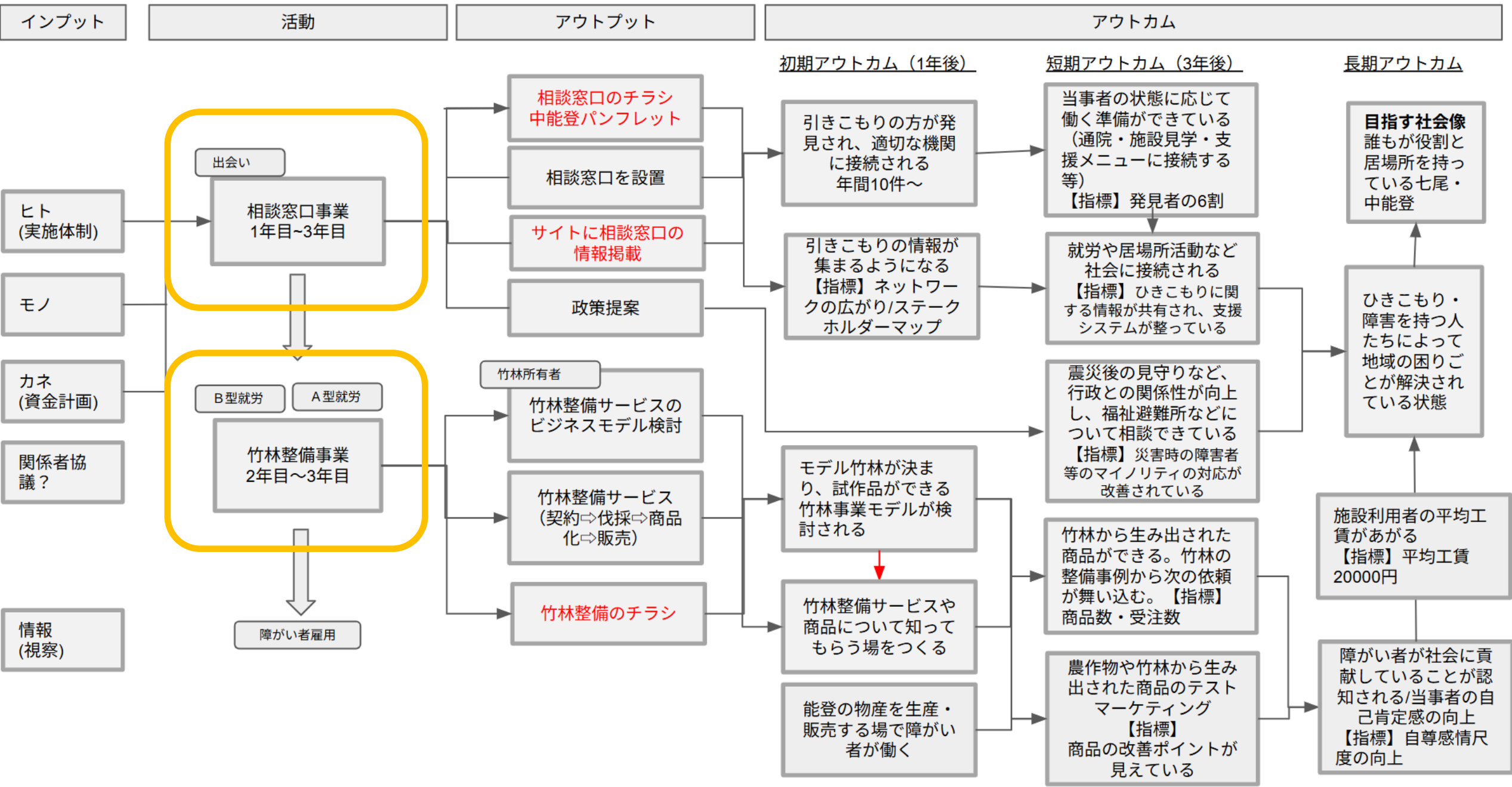
2023.8.2ver.1





事業名：障がい者が地域の困りごとを解決する事業

2025.3.5ver.9



年間実績（つばさ＋なんでも） ※中能登町のみ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規	25	21	15
相談者 (のべ人数)	52	148	119
訪問・同行 (のべ人数)	57	111	164
情報交換 (のべ人数)	36	48	37
居場所提供 (のべ人数)	24	0	236
終了者 (終了理由)	8	5	9

具体例

年をとっても

病気になっても

ひとりになっても

ほかのとにおりたいわいねえ

～自分らしく生きる明日のために
どんな居場所があったらいいのだろう～



講師略歴

山中しのぶ氏

1977年生まれ、高知県南国市在住。
3児の母。
2019年、41歳の時に若年性アルツ
ハイマー型認知症と診断される。携
帯販売の営業職として15年勤務し
2021年6月末、退職。
認知症になっても暮らしやすいまち
づくりをしたいと思い、2022年4月
(一社)セカンド・ストーリーを設
立。10月には「でいさあびす はっ
びい」を開所。

主催

あじさい会
(在宅医療介護福祉の連携を考える会)
中能登町高齢者支援センター
お問合先 0767-72-2697



6月28日 土

14:00～16:00
(13:30開場・受付)

参加
無料

申込
不要

どなたでもご参加いただけます

会場 ラピア鹿島 アイリスホール
(中能登町井田に部50番地)

認知症になった私の居場所ってどこにあるんだろう…
とにかく誰もが「ひとりじゃない」って思える居場所
を作りたかったんやちゃ

第1部 講演会

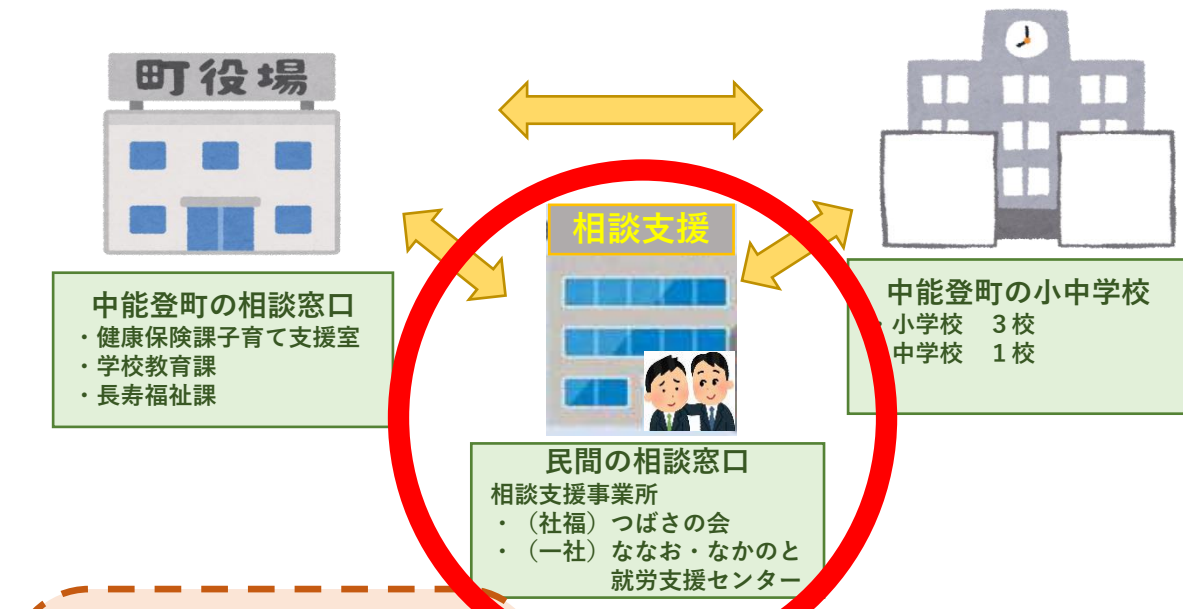
『わたしのことは
ワタシと決めよ』

セカンド・ストーリー代表理事
山中しのぶ氏

第2部 パネルディスカッション

テーマ『自分らしく生きる明日のために
どんな居場所があったらいいのだろう』

パネラー 山中 しのぶ氏
安田 紀久雄先生 (安田医院院長 あじさい会会長)
中村 志帆氏 (中能登訪問看護ステーション)
他



- 令和3年度のひきこもり・不登校状況
- ・該当者：29名（可能な範囲で把握）
傾向：10代の不登校、40代～60代のひきこもりが多い
 - ・相談窓口の周知：広報誌、チラシを全戸配布
 - ・協力体制の確立：障害、介護、訪看各事業所へ協力依頼
 - ・子育て支援室：①「ツナグ」を開設し、学童期・思春期の不登校の相談を実施
②不登校の子どもを抱える保護者同士のつどい場
③家庭の支援を実施

1. 実態把握・情報収集

ひきこもり情報の収集方法

- 直接相談
 - ・ひきこもり・不登校の親から直接
- 間接相談
 - ・介護サービス事業者
 - ・ケアマネージャー
 - ・訪問看護ステーション
 - ・障害福祉サービス事業者
 - ・相談支援専門員
 - ・民生委員児童委員
 - ・要保護児童対策地域協議会

2. 情報共有・ケース会議

- 情報提供者を交えて、関係課・民間支援委託事業所（R4から）と情報共有とケース会議を開催（今後の対応策を検討）

- 学校と学校教育課職員、相談支援事業所による連絡会（定期的に会議、1回/月）

3. 支援

関係機関との連携した支援と協力体制の確立

民間相談支援事業所へ業務委託から現在までのながれ

1. これまで、町職員が他の業務と掛け持ちでひきこもり対応を行っていた
2. 令和3年度ひきこもりプラットフォーム設置後の対応策を検討(庁内横断的会議)
3. 支援の優先順位として、実態把握の中より、優先的に介入する対象者を選定(8050世帯など)
4. 令和4年1月試験的に事業所へひきこもり・不登校児宅への訪問（アプローチ）を依頼
5. 発達障害からのひきこもり（50代）や人間関係の不安からのひきこもりとなるケースがみられる。
6. 定期的な訪問によって、障害福祉サービスの就労支援B型で、社会参加となった。

★委託から得たもの

- ・職員が、一人で相談のすべてを抱え込む必要がなくなった
- ・難しい案件は委託事業所に相談できるようになった
- ・信頼できる相談支援員の存在が大きい
- ・適切な情報収集を行い、情報共有・ケース会議に結びつけることが行政の役割となる

★課題

- ・教育現場と、不登校児の対応についての信頼関係の構築
- ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと、情報共有
- ・高校での不登校生徒の取組み
- ・個々の条件にあった居場所づくりの確保
- ・就労支援の実施



【相談できる体制づくり】



【ケース会議で知恵を出し合う】



【安心できる居場所づくり】



【家の中、外で緩やかな見守り】

相談窓口のお知らせ

ひとりで悩んで、「しんどいな」と感じることはありませんか？

学校生活のこと、家庭のこと、心配していること…家族や友達、学校とも違う立場から、相談員があなたと一緒に考えます。

- ・ 自分の将来が心配
 - ・ 成績が下がった
 - ・ 友達との付き合い方がわからない
 - ・ SNSが気になって、なにも手につかない
 - ・ 勉強をしたいけど集中できない
 - ・ 夜眠れない
 - ・ 親と話したくない
 - ・ ゲームがやめられない
 - ・ 誰かに相談するのが恥ずかしい
 - ・ 自分の好きなことを分かってほしい
 - ・ ○○の授業に出たくない
 - ・ 学校に行きたくない
 - ・ モテたいのに上手くいかない
 - ・ なにもやる気が起こらない
 - ・ 家事をしたり、家族の世話が大変
 - ・ いじめにあっている
- 等々

まずは相談してみませんか？どんなことでも相談は無料です。電話・メールでも大丈夫です。もちろん秘密は守ります。

＜相談窓口＞

社会福祉法人つばさの会

相談支援事業所 つばさ

☎ 0767-74-0125 (夢ういんぐ共用)

✉ soudan_tsubasa@outlook.jp



一般社団法人なお・なかのと就労支援センター

相談支援事業所 なんでも

☎ 0767-76-0150

✉ info@nanaonakanotocenter.jp



ご相談いただいた方々から寄せられたご意見を紹介します

相談支援事業所ってなに？って思ったけど、相談員はゆるい感じで話しやすかった。

中学生 女性

親がどれだけ言っても聞いてくれなかったのに、なぜか相談員さんの言うことは聞いてくれて

不思議だった。

高校生保護者 女性

相談したことは解決しなかったけど、話せたことでスッキリした。なんでも聞いてくれて、一緒に考えてくれる人がいると安心できる気がする。

また相談したいと思えた。

高校生 男性

大人の相談員が
漫画やゲームに
とても詳しくて驚いた。
少し引いた(笑)。

高校生保護者
女性

「朝起きられない」って
軽い気持ちで相談したら、思っていた以上に真剣に考えてくれて嬉しかった。

高校生 女性

相談員って、考え方が
変わっているなと思った。
でも自分の話はしっかり聞いてくれる。

中学生 男性

お互いに話しづらいこともあるから、家族の他に相談
相手がいると親としても
良い。

中学生保護者 男性

ご本人、ご家族からの相談でも大丈夫です。まずは相談してみませんか？

自分たちで解決できないときは 専門の相談機関へ

ひきこもりは、本人や家族の努力だけでは解決できないケースが多いものです。思い悩んだときは、第三者に相談してみることが、解決の手がかりになります。なお、本人が嫌がっているときは無理に連れ出したりせず、まずは家族など周囲の人が、専門の相談機関を訪ねてみるようにしましょう。



《ひきこもりについての情報や相談窓口については》

厚生労働省ひきこもり支援ポータルサイト
「ひきこもりVOICE STATION」

ひきこもりボイスステーション

検索



※ひきこもりに関する基礎情報や全国の相談窓口が掲載されています。

中能登町では、生きづらさや不安を抱え、ひきこもり状態にある本人やその家族などを支援するための相談窓口を設置しています。(相談無料・秘密厳守)

「この先のことが心配・・・」「誰にも話せなくてつらい・・・」など、ひとりで悩まず、まずはどんなことでもご相談下さい。私たちと一緒にこれからのことを考えていきましょう。

ひきこもり・不登校 相談窓口(中能登町ひきこもり支援ステーション事業委託)

●相談支援事業所 なんでも

TEL 0767-76-0150

メール info@nanaonakanotocenter.jp

所在地 中能登町井田れ部88番地

●相談支援事業所 つばさ

TEL 0767-74-0125

メール soudan_tsubasa@outlook.jp

所在地 中能登町良川の部2番地1

中能登町役場 担当窓口

- 長寿福祉課(行政サービス庁舎内) TEL 0767-72-3135
- 健康保険課こども家庭センター(行政サービス庁舎内) TEL 0767-72-3932
- 学校教育課(ラピア鹿島内) TEL 0767-76-2808

ひきこもり

～正しい理解と支援のために～

監修／恩賜財団母子愛育会愛育相談所 所長
齊藤万比古



内閣府が行った調査によると、15～64歳でひきこもり状態にある人は、およそ146万人にのぼると推計されています。しかし、ひきこもりに対する周囲の無理解や偏見が、当事者たちを苦しめているケースも少なくありません。ひきこもりに対する正しい知識をもち、社会全体で支援の輪を広げていくことが大切です。

「ひきこもり」ってどんな状態のこと?

「ひきこもり」という言葉をよく耳にしたり、ふだん何気なく口にしている人は多いことでしょう。でも、実際にどんな状態かを理解している人は意外と少ないのではないのでしょうか。

■「ひきこもり」の定義

さまざまな要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的に6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていてもよい)を指す現象概念

(厚生労働科学研究による「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」)



👉 具体的には、次のような行動パターンが見られます

学校を卒業・中退したまま、
仕事をしないですと家にいる

仕事を突然辞めてしまい、
家にこもるようになる

1日中自分の部屋に閉じこもって、
インターネットばかりしている

昼夜逆転の生活をしているが、
夜中にコンビニには出かけて
いるらしい

家族との会話がほとんどなく、
顔を合わせても避けようとする

どうして、ひきこもりになるの?

ひきこもりになる原因はさまざまです。成績の低下、両親の不和、受験の失敗、いじめ、職場不適應、病気などが原因となるケースが多いと考えられますが、原因やきっかけがはっきりしないことも少なくありません。

しかし、ひきこもりの原因を追及するよりも、いかにしてひきこもりの状態から脱することができののかについて考えることが、より重要な課題といえるでしょう。



ひきこもりは、“病名”ではありません

ひきこもりは、状態を指す言葉であり、病気の名前ではありません。ただし、何らかの精神疾患や発達障害が原因のひとつである場合があります。

また、ひきこもりは必ずしも「治療」の対象ではありませんが、ひきこもりが長期に及ぶ場合には、本人や家族の自助努力だけで解決するのは難しいケースが多いのが現状です。

ひきこもりに悩んでいるとき、専門の相談機関や医療機関などに相談することとは、重要な解決策のひとつとなります。



ひきこもっている本人の気持ちって?

ひきこもっている本人は、どんな気持ちで毎日を過ごしているのでしょうか?

多くの人は自信が持てず、物事を悲観的に考えがちです。また、社会や家庭の中で一定の役割を果たせていないことを、たいへん気にかけています。そして家族に負担をかけることを心苦しく思いながら、なかなか行動を起こせず、そんな自分の本当の気持ちを理解して欲しいという思いを抱いているものなのです。



ひきこもりに対して、家族はどう接すればいいの?

ひきこもりの人に対して、家族はどのように接すればよいのでしょうか。まずは、本人の気持ちを理解するように努めることが大切です。

前述したように、ひきこもっている本人は、誰よりも自分自身がいちばん苦しい思いをしています。そうした気持ちに寄り添って、ひきこもりの状態にあることを決して非難したりしないことが大切です。

《ひきこもりの人に対応するときの心構え》

- ひきこもりを否定せず、温かく見守ることを心がけましょう
- 解決には時間がかかると考え、焦らずに接するようにしましょう
- 朝晩の挨拶など、小さなコミュニケーションをとることを心がけましょう
- 周囲の人たちが孤立せず、健康であることが大切です。相談相手や仲間を探し、愚痴をこぼしたり、聞いてあげたりしましょう



自分を責めない、焦らない

子どもがひきこもりになってしまうと、親は「自分の育て方が悪かったのではないかと自分を責めたり、世間体を気にして「一刻も早く今の状態から脱け出さなくては」と焦ったりしてしまいがちです。

しかし、ひきこもりは決して恥ずかしいことではありません。また、ひきこもりを解決するには、ゆっくりと時間をかけて対処していくことが必要であることを、周囲の人たちは理解しておきましょう。





荒れた竹林 気になりませんか？



荒れた竹林の写真

私たちが竹林の整備のお手伝いをいたします！

竹林 整備の 要件

- ①作業に入っても危険が少ないところ(急斜面でないところ等)。
- ②現地環境や竹林の状況を事前に確認させていただき、作業の可否を相談させていただきます。

作業 方法

- ①一つ一つのこぎりを使い丁寧に作業致します。
- ②作業後の竹等は、当法人で処分させていただきます。
- ③作業前、作業後の写真をお届けします。

作業 料金

- ①1㎡ 3,000円～(作業内容によって異なります)。
- ②お客様立ち合いで概算面積を算出し、見積書を提出いたします。
- ③年間契約等によって、単価は考慮させていただきます。



「竹のチラシを見ました」とまずはお電話ください！待ってます！！

Tel : 0767-76-0150 (担当：亀井)

私たち一般社団法人ななお・なかのと就労支援センターは、障害のある人たちが毎日午前10時から午後3時まで働いています。この度の能登半島地震により仕事が激減しました。この竹林の作業は、諸経費控除後すべて利用者様に賞金・工賃としてお支払いいたします。また、今回の災害により沢山の方々からお見舞いや励ましの言葉をいただいております。

利用者様はもとより、職員一丸となってこの震災に負けまいと頑張っています。



一般社団法人
ななお・なかのと就労支援センター



能登竹の環チャレンジ

Noto Take-no Challenge



能登竹の環チャレンジ
—Noto— Take no Wa Challenge

竹林の仕事

竹林整備



能登竹の環チャレンジ
—Noto— Take no Wa Challenge

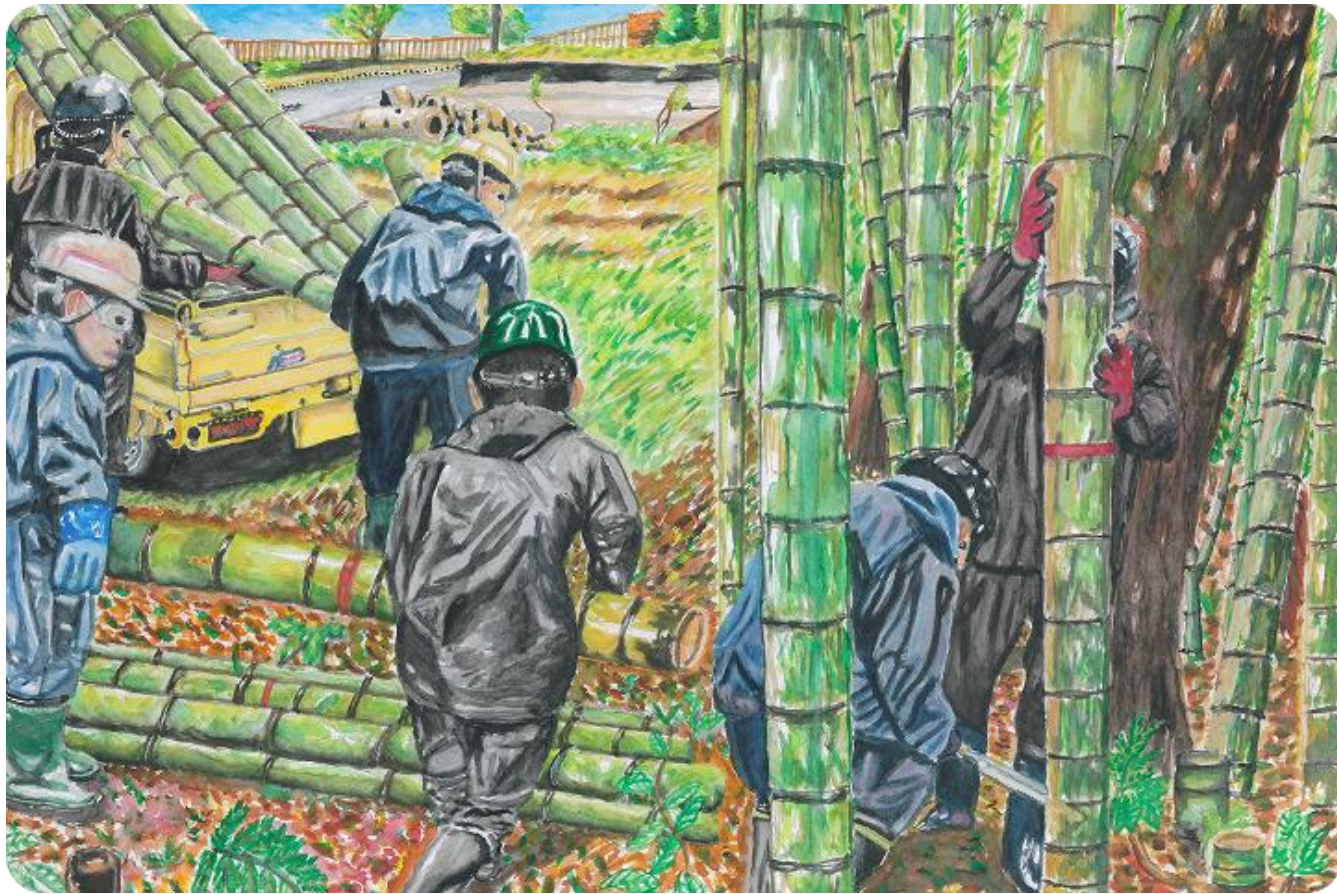


商品開発

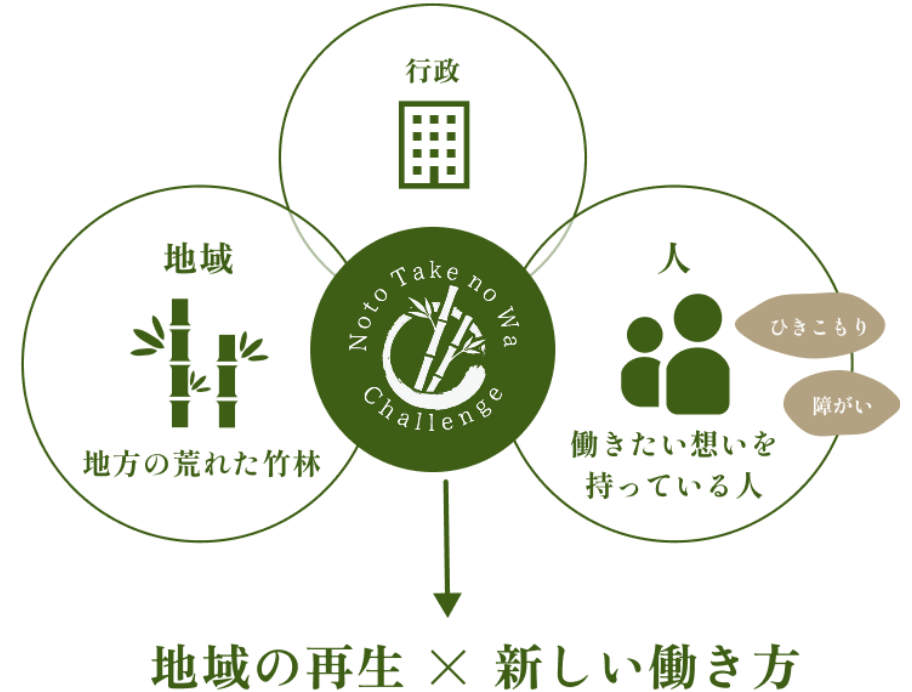
能登の竹炭



能登竹の環チャレンジ
—Noto— Take no Wa Challenge



利用者のイラスト。
地域の困りごとである、放置竹林を障害者等
が整備する事業を実施。切り出された竹から
竹炭をつくり、プロボノの力を借りながら商
品化。能登竹の環チャレンジのサイトも作成。



能登竹の環チャレンジ
—Noto— Take no Wa Challenge

つながりの重要性 → 「復興のために私たちができること」

①行政・支援団体等との連携、被災地への支援

○直接支援

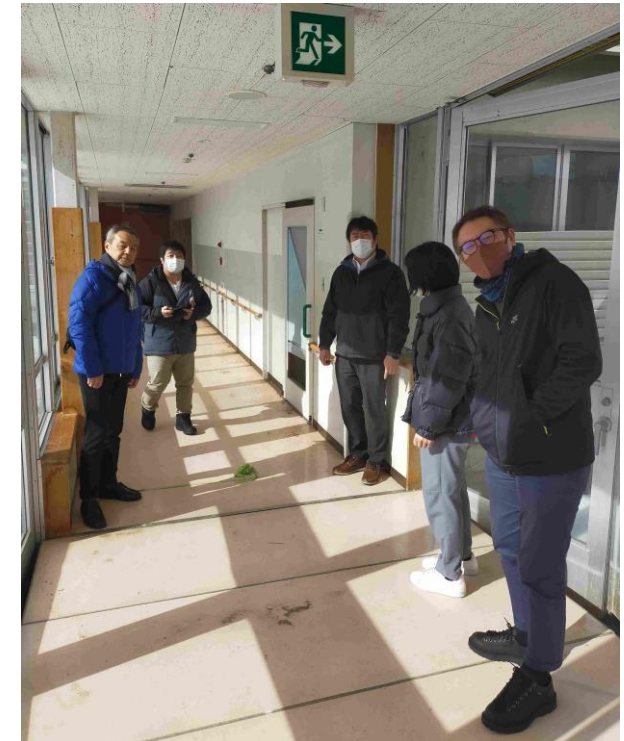
もともとのかかわっていた方への訪問
物資の配布
避難所への訪問
手続きへの同行
担当市町以外へのつなぎ
住まいの場の確保

○会議への参加

行政・支援団体との連携や情報交換
生活のしずらさを抱える方の窓口の啓発
あらたなひきこもり者との出会い

○被災地での現地支援

現地から求められることを、できることをやる
現地職員の応援（支援者支援）



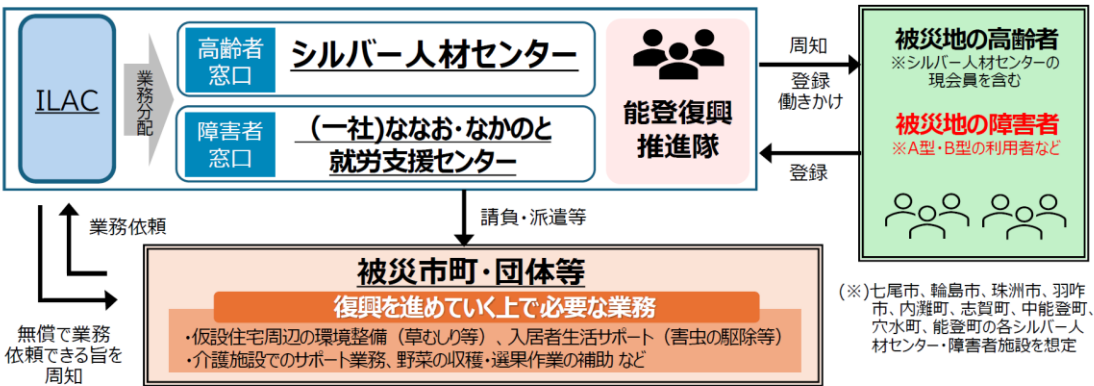
②奥能登の商品の物販販売



③被災地と福祉事業所の仕事の架け橋 (能登復興推進隊)

目的

そのため、能登全体の復興に向けて、県が主体となり、シルバー人材センターや各福祉就労施設を窓口にしなが、**高齢者・障害者と、復興を進めていく上で必要な業務をマッチング**していくことで、復興の推進や、仕事を通じた生きがいの創出、生計維持支援を行う。



復興のために私たちができること

④被災者であり支援者の吐き出しの場

令和6年度 第1回石川県精神保健福祉士会 能登ブロック研修会

能登半島地震から
能登の人間が
能登を考える
能登らしい能登を
そんなシンポジウム。

「私たちが考える支援者支援とは・・・」「復興に向けて私たちができることは・・・」
全国で災害支援活動を行ってきた仲間が能登入りします。だからシンポジウムをします。

【シンポジスト】
○河合 宏氏（医療法人梁風会さきがけホスピタル）
・岡山県精神保健福祉士協会所属、日本精神保健福祉士協会 災害支援体制整備・復興支援委員会の委員長。神経質なのに大雑把。なのに、おほかたでもない。集中力も散漫で、意思も弱い。人見知りするのにも、馴れ馴れしく近づいていく。南三陸の避難所で、転んでタコ焼きをこぼした男子の発した一言に感銘を受け、以来、自分のできることを模索している炭水化物が大好きな46歳。
○菅野 直樹氏（日本赤十字社福島赤十字病院）
・福島県精神保健福祉士会所属、日本精神保健福祉士協会災害支援体制整備・復興支援委員会の委員。小さいことも気にならないのに、目の前のことしかできない。玄関を出た瞬間に忘れ物に気づき、最速で帰宅するという日常生活の中で取り入れられる運動を日頃から無意識に実践している。幼少期はドラえもんが好きで、SWOの目標にもしていたが、似通ってきたのは体型のみ。最近では、くまモンと間違われることもあり、ゆるキャラへのエンタリーも思案中、ないものねだりで器用貧乏を目指し続けている45歳。

日時
10月12日（土）13:30～16:00(13:00 から受付)
※タイムテーブルは変更となる場合があります。

場所
〒926-0021
石川県七尾市本府中町7番地1
「こころの相談支援センター まつぼっくり」

・13:30～ 開会
・13:35～ 「支援者支援とは（仮）」 河合 宏氏
・14:05～ 「福島の実践報告（仮）」 菅野 直樹氏
・14:40～ グループワーク
・15:50～ 閉会

コーディネーターは本谷がします！
（相談支援事業所などでも日本精神保健福祉士協会 災害支援体制整備・復興支援委員会 委員）

お申し込み
お手持ちのスマートフォン等で読み取り
と直接申込フォームへアクセスできます。

【石川県精神保健福祉士会 教育研修部 能登ブロック研修企画委員会】 問い合わせ先 060-4893-5548(本谷)



⑤福祉避難所の整備

七尾市・中能登町の福祉避難所不足
→ 施設を改修し、令和7年3月10日に七尾市と協定



※中能登町にも行政と連携し、
令9年4月に設置予定

休眠預金活動を通して

- ひきこもり者を中心とした、生活のしずらさを抱える人たちと出会うことができた。
- 中能登町とは継続して活動が続けていくことに。
- 地域の困りごとを、障害のある人やひきこもり者が解決することができる仕組みができた。
- 安定した自主財源としての商品の販路開拓ができた。竹炭以外にもこれから作成予定。
- たくさんの方とのかかわりができたことで、福祉しかわからない私たちの視野が広がった。

休眠預金活動をする前は…

- 商業的な知識がなかった（商品の値段設定も販路も…）
- 継続的な資金調達のしくみがない（職員の配置、活動のための資金、機械の購入…。投資ができないため見通しがなかった）
- 福祉的なネットワーク以外の構築が難しかった。

⇒資金だけではなく、つながりが大事。新たな知識を得ることができた。

やりがいをうみ、自立を高める

- 当事者は仕事をすることで役割が生まれ、また収入を得ることでやりがいが生まれる。
- 併せて、地域の困りごとを仕事にすることで地域住民が助かるだけでなく、障害の啓発活動も行いうことができ、障害における差別偏見を解消させ、将来的には障害があっても住みやすい七尾市・中能登町を作り上げることができる。
- さらに、障害者自身も、障害があっても求められていることを体感しながら、その一方で地域住民と触れ合うことにより社会性を身に付け、自身の生きる価値を高めていくことができる。

私たちとかかわる人たちが、その人らしいハッピーな生活を実現できることを目指して。（当センター基本理念より）